

菊花



この季節になると各所で菊花展が開催されていますが、見事な花が目を引きます。大輪の一本菊や懸崖の鉢植えを見ると作り手の苦労がわかるようです。

菊は日本的な花という印象ですが、中国で5～6世紀に生まれたとされ、平安時代に日本へ渡来したとの説があります。日本にはノジギクなど固有のキク科キク属の野菊がいくつか自生しています。ノジギクは兵庫県の県花にも指定されています。幕末から明治期にはヨーロッパにも日本の菊がもたらされました。中国の菊も持ち込まれたのですが評価が低く、日本の菊がもてはやされ、様々な品種が生み出されました。現在では、菊は本場の日本よりもう欧米での評価が高く、欧米各地ではよく菊フェスティバルが開催されています。

日本にもヨーロッパで改良された品種が輸入されていますが、元は日本の菊であったことを知らず、西洋菊として別種のものと思っている方が多いようです。

誇りを持って、日本発で今や世界の花でもある菊を育てていただきたいのです。

(記事 理事 高尾 肇)



▲素朴なノジギクの花

人も物も大切に

香寺支部 白石 愛子さん

元の形とは異なった用途の衣類や飾りなどにリリフォームされたり、刺繡作品を製作されたりしてじる白石愛子さん

(78) を訪ねました。

口コミで伝わる評判



香寺町で美容室を営まれて いる白石さん。元々手先を動 かすことが好きで、30年前 から仕事の合間に刺繡や衣類 のリリフォームを始められたそ うです。最初は刺繡の先生に 指導を受けていましたが、先 生が病気になられてからは、 我流で図案を描き、思うままで に作品を作っているそで

す。

職業柄、人と話す ことも多く、衣類の リリフォームをしてい ることが人から人へ と伝わり、過去には 農協からもリリフォー ムの依頼があつたそ うです。美容室のお 客様にも、白石さん にリリフォームや刺繡 を教わった方がいら つしゃるそうです。



▶白石さん、後ろの飾りもお手製です

学生の頃は家庭科

母のように



が好きではなかつた白石さ ん。手芸に打ち込むようにな つたのはお母様の影響が大き いそうです。

「既製服があまりなかつた 時代、母が自分の着物を使つ て私に服を作つてくれたり刺 繡してくれたのがとても嬉し かった」と白石さん。自身も

自然とお子さんやお孫さんの ために編み物をするようにな つたそうです。物を大切にし たいという気持ちも強く、一 見「母のよう」



パッチワークの壁かけ

「家族には叱られるんですよ …」と笑顔で話されます。

作品を製作している時は無 心で、頭の中が空っぽになる ため気分転換になるそうで す。また、お子さんやお孫さ んのために製作することが心 の支えになつていて。

受け継がれる愛情



最後に、今後について伺 います。

ますと、「股関節に人工骨を入れたり、不整脈でペースメー カーを入れたため無理は出 来ませんが、生きている限り はマイペースで続けたいです ね」と白石さん。自指すは90 歳を超えても現役とのことで

12月にはお孫さんが結婚式 を挙げられるそうです。「孫 がお母さんになつたとき、我 が子に着せてあげたらいいと 思つて、孫が小さい頃に着て いた服をクリーニングし今も 大切に保管しています」と白 石さん。白石さんの愛情や物 を大切にする気持ちは、きっ と、お孫さんや、さらにはひ 孫さんにも受け継がれていく ことでしょう。今後もお元気 で素晴らしい作品を作り続け てください。

▶華やかに飾られたタンス

(取材 理事 野村千恵子)



▲もんぺから作った小物入れ

▲スカートから作ったマント